

「魚介類生息環境修復～豊かな漁場の復活～」(仮称)ワーキンググループの設置について(案)
 諏訪農業農村支援センター

1 目的

諏訪湖では護岸整備や水質改善対策が進む一方、魚介類の生息に重要な役割を果たす水辺移行帯の減少に加え、外来魚や魚食性鳥類等による食害等により、近年の漁獲量は主要魚種のワカサギを中心に激減しており、その魚種も限定されてきている。

そこで、諏訪湖を魚介類の生息に適した環境へと修復し、豊かな漁場の復活に向けた課題整理と具体的な手法や技術導入の検討・検証を行うため、ワーキンググループを設置する。

諏訪湖創生ビジョン（令和5年3月改定）の抜粋

3.2.2 水生動物の課題

水生動物の生息のため、湖岸だけでなく湖内においても生物多様性に配慮した環境を維持・整備する必要があります。

オオクチバスやブルーギルは、ワカサギやエビ類等の漁業資源を食害するだけでなく、水生昆虫なども捕食するため、生態系保全の面からも外来魚の駆除活動を継続する必要があります。

3.3.1 漁業の課題

水産資源の生育に役立つ水質改善対策を進めるとともに、湖岸だけでなく湖内で自然増殖するための生息・産卵場所の整備を検討する必要があります。

魚を潜水して捕食するカワウやカワイサ、年によってはカイツブリ類も多数飛来し、魚食性鳥類による食害が深刻な問題となっています。また、オオクチバスやブルーギルによるワカサギやテナガエビ等の食害も問題となっています。

2 概要

(1) ワーキンググループメンバー


諏訪湖創生ビジョン推進会議構成員（流域市町村、県、関係団体 等）、学識経験者（別途、選任予定）

※ 事務局：諏訪湖漁業協同組合、諏訪農業農村支援センター

(2) 活動内容

- ・ 諏訪湖の生態系の現状と課題整理
- ・ 魚介類の生息・再生産機能を有する湖岸・湖内への修復手法及び手順の検討
- ・ 漁獲量回復へ向け、即時導入が可能な既存技術の検討 等

3 今後のスケジュール（令和5年度の予定）

時期	ワーキンググループの活動
5月25日	第10回諏訪湖創生ビジョン推進会議にてワーキンググループ設置
8月	学識経験者の選定・委任 WGの適宜開催
	
12月	
3月	諏訪湖創生ビジョン推進会議へ検討結果の報告